

特選

三句目題詠「立」

【有馬 朗人選】

手話の指雪の深さを語りけり 愛 媛 平井 光枝
アマゾンの大河を繋ぐ天の川 ブラジル 青木 駿浪
生涯の最後の稲架を組み立てぬ 岩 手 鉄本美那子

【稲畑 汀子選】

年の瀬や値札の上に貼る値札 群 馬 亀井すみ江
しばらくは余震忘るる花の旅 千 葉 藤井 黎子
立てる今歩ける今を露踏んで 東 京 田島 照子

【茨木 和生選】

戦地への母の手紙を曝しけり 埼 玉 青木かつ子
箱眼鏡水なき如く見ゆるかな 高 知 石川 徹
名を呼ばれ満を持し立つ一年生 和歌山 上中 光

【宇多喜代子選】

塩引きの鮭のしろがねびかりかな 東 京 山本多津子
雪吊りも鮭吊る家も城下町 新 潟 飯塚不二男
少年の一笛に立つ荒神興 茨 城 草間 亨

【大石 悦子選】

善哉善哉桃の日は誕生日 神奈川 妹尾 茂喜
開拓にいくつ倒せし蟻の塔 ブラジル 山根 敦枝
湯気立てて母のことなど聴く夜かな 新 潟 湯 広瀬 修平

【大木あまり選】

抱き起こす稲にぬくもりありにけり 山 梨 八代菜美子
眼を病めば囀りといふ贈物 神奈川 小山 直子
生れし牛立つまで獣医汗ふかず 三 重 田島 もり

【大串 章選】

日本の白鳥となり啼きかわす 秋 田 小西 南星
甲板にコック出てをり後の月 広 島 頼経 正道
新涼や立ちし児の手に白寿の手 兵 庫 土肥 晴世

【金子 兜太選】

老人の手をひくロボット文化の日 神奈川 渡辺 ふみ
どの家も移民のあかし柿すだれ ブラジル 古屋 房子
立春やほつと一息する看取 大 分 加来 富子

【倉田 紘文選】

百歳の母を寿ぎ小鳥来る 神奈川 松野 和子
途切れたる喪主の挨拶桐一葉 福 岡 中嶋 磨澄
先頭に立つて花野の風となる 神奈川 佐藤 博一

【黒田 杏子選】

原発で働く夫よ時鳥 東 京 赤嶺百合子
百年の移民根性冬耕す ブラジル 小西 成子
鎌立てて浮き上がりくる鮑海女 徳 島 湯浅英美代

【高野ムツ才選】

泳ぐ魚底を這ふ魚銀河濃し 長崎森 径子
雀の子大地の色をして生るる 兵庫 岸本眞智子
田の角の泥つかみ立つ余り苗 新潟 澤海由貴子

【鷹羽 狩行選】

天上は一枚の紺蕎麦の花 大分 渡辺 節子
手花火の玉となりたる重さかな 山口 山本 礼子
立山の雲の中なるお花畑 千葉 大久保文夫

【寺井 谷子選】

大夕焼都市あかかと死んでをり 千葉 岡田満州生
炎昼や河馬の目だけを見て帰り 熊本 種元弘一郎
冴返る立て三陸よ福島よ 東京 小澤 正長

【廣瀬 直人選】

足音をきき分けてゐる寝釈迦かな 大阪 今口 雪子
草の花自分の色に咲きにけり 埼玉 増尾千恵子
居並ぶは坐像立像雲の峰 埼玉 北澤 雄市

【星野 高士選】

うまいもの喰うて台風圏に在り 栃木 吉沢 道也
足許に波打ち寄せる秋彼岸 東京 戸田タツ子
立ち止まるやうに虫の音途切れけり 宮城 渋谷 史恵

【正木ゆう子選】

ロッカーの私の匂い初仕事 神奈川 比留間加代
六十年そして一人となりし冬 佐賀 眞島きよ子
村に生き泡立草のまま枯れる 大分 谷川 彰啓

【三村 純也選】

持ちあげて重たきほどの秋刀魚焼く 群馬 高橋 芳枝
飛び入りの子が句座にあり夏休 群馬 小実 光子
立山を仰ぎ見て汲む岩清水 岡山 山村田 武久

【矢島 渚男選】

みちのくの新米を噛む強く噛む 東京 加藤美代子
滴りとなる一瞬のゆがみかな 東京 小松 章子
金魚売立浪部屋に荷を下す 兵庫 山本あかね